

2014 年 10 月 31 日

報道機関各位

調査レポート

2014 年 7～9 月期のGDP(1 次速報) 予測

11 月 17 日に公表予定の 2014 年 7～9 月期の実質 GDP 成長率は、4～6 月期に急減した反動により前期比プラスに転じるものの、伸び率は前期比 +0.4% (年率換算 +1.6%) と小幅にとどまったと見込まれる。駆け込み需要の反動減の動きが落ち着いた後も、景気の持ち直しペースが鈍いことが示されることになりそうだ。

個人消費は、反動減は一巡しつつあるが、実質賃金の減少による落ち込みに加え、夏場の天候不順の影響によって伸び率は緩やかにとどまったようだ。設備投資も、前期に落ち込んだ反動でプラスになった見込みだが反発力は弱い。公共投資は昨年度の補正予算の執行が本格化してきたことなどから前期比でプラスに転じた模様である。一方、輸出、輸入とも小幅の増加となったが、輸入の伸びが輸出の伸びをやや上回ったため、外需寄与度はマイナスに転じたと見込まれる。

名目 GDP は前期比 +0.2% (年率換算 +0.8%)、GDP デフレーターは前年同期比 +1.9% と予想する。

	2013年			2014年		
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
実質 GDP	0.8	0.4	- 0.1	1.5	- 1.8	0.4
同 (年 率)	3.4	1.8	- 0.5	6.0	- 7.1	1.6
同 (前年同期比)	1.2	2.3	2.5	3.0	- 0.1	0.0
内需寄与度 (*)	0.8	0.8	0.5	1.7	- 2.9	0.5
個人消費	0.7	0.2	0.4	2.0	- 5.1	1.0
住宅投資	2.1	4.7	2.4	2.0	- 10.4	- 7.3
設備投資	1.8	0.5	1.0	7.8	- 5.1	1.2
民間在庫 (*)	- 0.4	0.2	- 0.1	- 0.5	1.4	- 0.2
政府最終消費	0.6	0.1	0.2	- 0.2	0.1	0.2
公共投資	5.8	7.1	1.4	- 2.5	- 0.5	2.7
外需寄与度 (*)	0.1	- 0.4	- 0.6	- 0.2	1.1	- 0.1
輸出	3.1	- 0.7	0.3	6.5	- 0.5	0.6
輸入	2.3	1.8	3.7	6.4	- 5.6	0.9
名目 GDP	0.3	0.4	0.2	1.6	- 0.2	0.2
同 (年 率)	1.2	1.5	0.9	6.4	- 0.7	0.8
同 (前年同期比)	0.7	1.9	2.0	2.9	1.9	1.9
GDP デフレーター (前年同期比)	- 0.6	- 0.4	- 0.4	- 0.1	2.0	1.9

(注) 内需寄与度、民間在庫、外需寄与度は実質 GDP に対する寄与度

(出所) 内閣府「四半期別 GDP 速報」

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 主任研究員 小林 真一郎

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

TEL: 03-6733-1070

需要項目別の動向は以下の通りである。

実質個人消費（前期比 + 1.0%）

個人消費は、駆け込み需要の反動減の動きは一巡しつつあるものの、実質賃金の減少が家計の消費行動にマイナスの影響を及ぼしていることに加え、夏場の天候不順の影響によって伸び率は緩やかにとどまったようである。

実質住宅投資（前期比 - 7.3%）

駆け込み需要の反動減による住宅着工件数の落ち込みは一巡してきているが、住宅投資は遅れて変動するため、引き続き落ち込んだと見込まれる。

実質設備投資（前期比 + 1.2%）

4～6月期に減少したことへの反動に加え、維持・更新など必要な投資は行われており、前期比で増加に転じたと予想される。ただし、資本財出荷の伸びが小幅であり、緩やかな伸びにとどまった模様である。消費税率引き上げ後、業績改善が一服していることもあって、企業は設備投資に慎重になっている可能性がある。

実質在庫投資（前期比寄与度 - 0.2%）

増税後の出荷の落ち込みから在庫が急速に積み上がっており、在庫調整の動きが広がりつつある。このため、在庫投資のGDP成長率に対する寄与度はマイナスとなった可能性が高い。

実質政府最終消費支出（前期比 + 0.2%）

医療費などを中心に政府サービスに対する需要が増加基調にあることから、引き続き前期比で増加したと思われる。

実質公共投資（前期比 + 2.7%）

2013年度の補正予算の執行が本格化していることや、2014年度予算の前倒し執行の影響により、公共投資は前期比でプラスに転じたと見込まれる。

外需（前期比実質寄与度 - 0.1%、実質輸出：前期比 + 0.6%、実質輸入：同 + 0.9%）

海外景気の持ち直しが続き、円安が定着化しているものの、輸出数量は横ばい圏内での動きが続いており、輸出は前期比で小幅のプラスにとどまったと予想される。輸入も、内需の弱さを反映して前期比の伸びは小幅にとどまったが、輸出の伸びは上回ったようである。この結果、外需の実質GDP成長率に対する寄与度は - 0.1%とマイナスに転じたと予想される。

GDPデフレーター（前年同期比 + 1.9%）

GDPデフレーターは、消費税率引き上げの影響によって前年比で高い伸びを維持しているものの、需要の弱さを反映して伸びはやや鈍化した見込みである（季節調整値では前期比 - 0.2%）。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。